

第4回交通経営マネジメント研究会議事録

- (1) **日時** 2007 年 3 月 16 日 (金) 16:00～18:00
 (2) **場所** 京都大学 吉田キャンパス 法経総合棟 311 演習室
 (3) **配布資料**

4-1: 第 4 回交通経営マネジメント研究会目録

4-2: 第 3 回交通経営マネジメント研究会議事録

4-3: 交通経営マネジメント研究会名簿

4-4: 今木氏提供資料

- (4) **話題** 「阪神高速の民営化」

阪神高速道路株式会社 今木博久 氏

- (5) **討議内容** 「土木計画学春大会スペシャルセッションについて」

- (6) **出席者** (順不同, 敬称略, 14 名)

	名 前	所 属
1	小林潔司	京都大学経営管理大学院 / 京都大学大学院工学研究科
2	江尻良	京都大学経営管理大学院 / 東海旅客鉄道株式会社
3	宇野伸宏	京都大学経営管理大学院 / 京都大学大学院工学研究科
4	松島格也	京都大学大学院工学研究科
5	今木博久	阪神高速道路株式会社
6	岸野啓一	岸野都市交通計画コンサルタント株式会社
7	宗和泰司	関西電力株式会社
8	大西重行	(株)クリアパス
9	成 勲昶	神戸大学大学院経営学研究科
10	小泉慶倫	京都大学経営管理大学院
11	南本哲穂	京都大学経営管理大学院
12	満 徳勇	京都大学経営管理大学院
13	鄭 蝦榮	京都大学大学院工学研究科
14	菱田憲輔	京都大学工学部地球工学科

(7) 話題提供: 今木 博久 氏(阪神高速道路株式会社)

「阪神高速の民営化」

主な質疑応答は以下の通り。(以下敬称略)

――氏: 日本高速道路保有・債務返済機構と高速道路株式会社の関係について。

高速道路などの資産に対する固定資産税は支払うのか？

――氏: 固定資産税はない。しかし、それに代わるものはある。道路の延長に比例する額をその地域に支払うというような税に相当するものはある。

――氏: 対距離料金制導入に関して、ETCの普及状況が限界に近いという話をされましたが、それについて今後どうしていくのか？

――氏: 現在他の交通機関などで使用されている edy カードのようにすることを考えているが、実用化までにはまだ問題がたくさんある。また、移動区間の最大料金を収受する方法なども考えているが、反対が多い。どんな方法にせよ、仮定を何段階かに分けて、段階的に実施することが必要かと思う。まだ、詳しいことは決まっていない。

――氏: ETC車載機の普及には限界があると思うが、その限界は何パーセントほどか？

――氏: 9 割くらいが限界という感覚を持っている。現在、高速道路利用車に対する割合では 7 割程度である。全自動車に対する割合では 3 割もいかない。利用機会の少ない利用者に ETC 車載機をつけてもらうのは大変困難で、最後の 10、15% が難しい。義務化などの話もあるが今の段階では実現は困難である。

――氏: 民営化後の高速道路株式会社は利潤をあげてはいけないという考え方がなかなか理解しにくいのだが？

――氏: 民営化する話になった時、高速道路料金が低いという問題が大きく挙げられていた。その中で、利潤を出すくらいなら料金を下げるといった考え方になっていると考えている。

――氏: 平成 17 年 10 月に決定したという返済完了期限の 45 年を経過して、すべての負債を返済できた後、日本高速道路保有・債務返済機構から高速道路などの資産は地方公共団体に移されることになり、高速道路株式会社の高速道路料金収入はなくなることになる。そのとき、高速道路株式会社はどのようなになるのか？

――氏: パーキングエリアなどによる関連事業と高速道路の管理を受ける企業としてやっていくことになると思われる。

(8) 土木計画学研究発表会・春大会(6/9・10 九州大学)におけるスペシャルセッション

1. セッションのテーマと概要

POINT:コーディネーション・経営・不確実情報

「交通サービスにおけるコーディネーションメカニズム」

- ・ 高度な知識や情報のやりとりが行われる知識社会においては、交通行動をはじめとした多くの活動を実施するにあたって個人間、企業と個人、企業間、さらには同一個人内においても様々な形のコーディネーションが必要となる。
- ・ これまでの交通計画論においては、主として道路混雑などの外部経済性の内部化に焦点をあてているが、様々な主体間のコーディネーションメカニズムに着目すれば、これまでの総合交通計画に対して新しい方法論を提示し、交通計画におけるパラダイムシフトを引き起こす可能性がある。
- ・ 本セッションでは、交通サービス経営の観点から交通現象におけるコーディネーションに着目し、コミュニティカードを通じた消費行動のコーディネーション、道路交通における交通量変動のコーディネーション、公共交通市場における戦略的補完性と調整の失敗、等について話題提供を行い、交通計画論における新たな視点と方法論について議論する。

2. 構成予定

3-5 名程度の話題提供とフロアを交えたディスカッション

セッションオーガナイザー:小林潔司教授

話題提供テーマと発表予定者

コミュニティカードを通じた消費行動のコーディネーション(西田純二氏)

道路交通における交通量変動のコーディネーション(宇野伸宏助教授)

公共交通市場における戦略的補完性と調整の失敗(松島格也助教授)

他, 数名

話題提供を希望される方は, 松島 kakuya@psa.mbox.media.kyoto-u.ac.jp までご連絡下さい。

(9) 次回研究会

日時:4 月 20 日(金) 16:00-18:00

話題提供者:TBA, 決まり次第ご連絡いたします。

文責:菱田